

今年度は認知症を予防するために「認知症についての知識」、「認知症の治療とケア」、「認知症の予防」について、順を追って掲載していきます。

今月は認知症についての知識として、3大認知症の症状や傾向をご紹介します。

気になる症状がある場合は、自己判断せずに専門医（内科、神経内科、精神科）へ相談してください。



おたっしゃ本舗

今月の福祉

多久市地域包括支援センター
(多久市役所 福祉課内)

☎ 75-6033

多久市地域包括支援センター（おたっしゃ本舗多久）は高齢者のみなさんが、いつまでも**元気**で**安心**して暮らせるように、あらゆる面から応援する相談機関です。

認知症ストップ作戦

No.5

3大認知症の特徴



3大認知症の特徴は？

「アルツハイマー型認知症」、「脳血管性認知症」、「レビー小体型認知症」が3大認知症と言われています。進行速度や障害の重度、人格の変化など様々な症状や傾向があります。



- ※1 嚥下障害：水分や食べ物を口の中に取り込んで、咽頭から食道・胃へと送り込むことを「嚥下」といい、この過程のどこかがうまくいかなること。
- ※2 幻視：見えないものが見える現象。レビー小体型認知症の人に多い幻視は、虫や小動物、人、子どもなど。

アルツハイマー型認知症

いちばん多い認知症です。脳内で異常なたんぱく質（アミロイドβたんぱく）がつくられ、脳の細胞の働きが少しずつ失われて死んでいき、脳が萎縮して機能が全般的に低下していきます。

脳内の変化は、記憶障害など具体的な症状がでる何年も前から起きているといわれ、徐々に進行していきます。早期の発見が重要です。

症状・傾向

- ・女性に多い
- ・ゆっくり進行する（若年期に発症した場合は進行が比較的早い）
- ・ものの忘れの自覚がなくなる
- ・初期には麻痺など神経障害は少ない
- ・人格が変わることがある
- ・画像診断で脳の萎縮がわかることがある

脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血など脳血管疾患のために、病気が起きた部分の脳の細胞の働きが失われることで発症します。ほかの認知症よりも画像診断で発見しやすいタイプで、損傷を受けた脳の部分の機能は失われますが、脳全体の機能が低下することは少ない病気です。

片麻痺や嚥下障害^{※1}、言語障害など身体症状が多く見られ、脳梗塞の再発を繰り返しながら段階的に進みます。

症状・傾向

- ・男性に多い
- ・再発のたび段階的に進行する
- ・機能低下はみだらに起こる
- ・初期にはものの忘れの自覚がある
- ・片麻痺など神経障害が起こりやすい
- ・人格は比較的保たれる
- ・画像診断で脳梗塞などの病巣が確認できる

レビー小体型認知症

脳内に「レビー小体」という特殊な物質が蓄積された結果、脳の細胞が損傷を受けて発症する認知症です。

手足のふるえ、筋肉の硬直などパーキンソン病に似た症状や、うつ症状、ものの忘れとともに生々しい幻視^{※2}があらわれるのが特徴です。

アルツハイマー型認知症よりも比較的早く進行します。

症状・傾向

- ・男性に多い
- ・なだらかに症状が進行する
- ・機能低下は全般的に進む
- ・初期にはものの忘れの自覚がある
- ・筋肉の硬直などが起こりやすい
- ・生々しい幻視があらわれる
- ・被害妄想が起こりやすい
- ・人格は比較的保たれる
- ・画像診断では脳の萎縮が軽い